



ASKUL

脱炭素経営フォーラム

2025年3月5日

アスクル株式会社

会社概要



創業 : 1993年3月

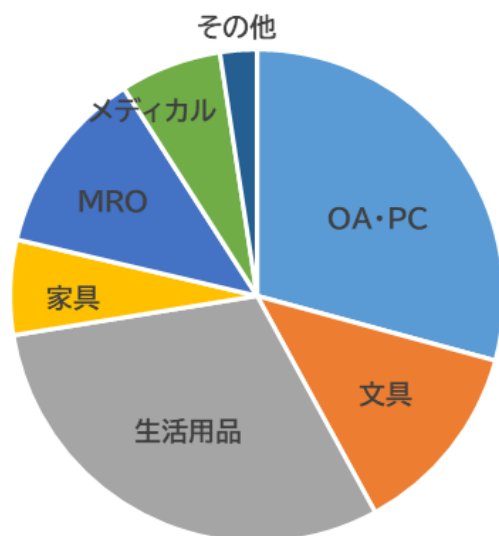
プラス株式会社アスクル事業部として
オフィス用品通販サービスの営業を開始

売上高 : 4,717億円 (2024年5月期:連結)

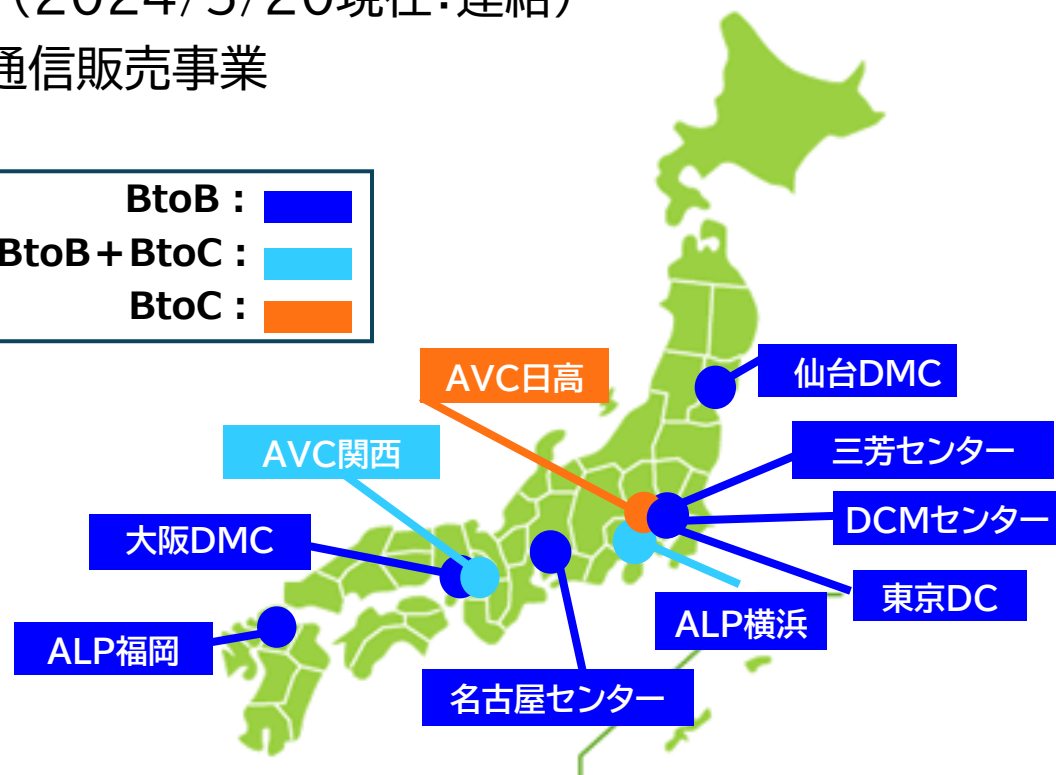
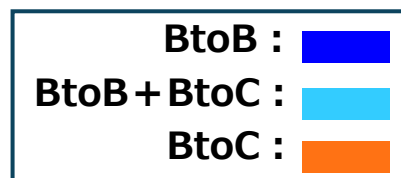
資本金 : 21,233百万円 (2024/5/20現在)

従業員 : 3,687名 (2024/5/20現在:連結)

事業内容:法人および個人向け通信販売事業



取り扱い商品は1400万アイテム



背景

- マテリアリティ「脱炭素社会の実現に向けた挑戦」を掲げている
- サプライチェーン全体でのCO2削減が求められている

アスクルの 環境目標

SBT目標

- 長期目標: 2050年までにScope1、2、3すべてをネットゼロ
- 短期目標:
 - Scope1+2: 2030年までに88%削減(2021年比)
 - Scope3: 1) サプライヤーエンゲージメント
CO2排出量※上位90%のサプライヤーに対して
2028年までにSBTに準拠した目標の設定
2) 2030年までに25%削減(2021年比)

課題

- サプライヤーはScope1、2、3排出量未算定のところが多い
- サプライヤーの取り組みの進捗度合が異なる
- サプライヤーの削減を支援したい

本事業の ゴール

サプライヤーエンゲージメント目標を達成するために
他のサプライヤーにも展開できる適切な支援策を構築する

※Scope3カテゴリー1の仕入商品全体のCO2排出量

取り組みの内容と成果

(1) 本事業の実践(支援内容)

	依頼事項	期限⇒実績	支援内容
1	意識醸成	本事業前に 済み	• SBTサプライヤーエンゲージメント対象93社にアンケート ➢ 目標の設定状況（SBT認証の有無） • サプライヤー向け説明会 ➢ SBTサプライヤーエンゲージメントの依頼 • サプライヤー向け勉強会 ➢ SBT概要、Scope1、2、3 算定方法 • 「脱炭素の取り組み」アンケート実施
2	排出量算定	11月末まで ⇒12月末	• 構成企業に算定ツールの提供 ➢ Scope1、2：エネルギー使用量入力 & CO2算定ツール ➢ Scope3：自社の算定用Excelを提供 • CO2算定結果の確認とフォロー ➢ 排出係数を毎年の見直し、海外の排出係数の説明
3	目標設定	12月末まで ⇒2社終了	• SBT目標概要、中小企業版と通常版の説明 • 構成企業に対して目標設定の検討を依頼し合意を得る
4	削減策の検討	1月末まで ⇒終了	• 再エネ調達の説明 • 設備更新のための補助金の活用

取り組みの内容と成果

(2)構成企業の状況と課題

2025年1月末現在

STEP	依頼事項	支援内容	A社	B社	C社
	構成企業の概要		規模:中 国内外に工場あり メーカー	規模:小 自社工場は国内のみ メーカー	規模:大 拠点数:多 生活用品専門商社
1	意識醸成	依頼事項説明会 SBT概要、Scope123 算定研修	脱炭素への取り組みが積極的。社内に脱炭素の意識が浸透している。環境配慮商品を多く手掛けている。		
2	排出量 算定	Scope1, 2, 3算定ツールの提供、 具体的算定方法の説明	対象:Scope1,2 算定終了 次年度以降の算定可能	対象:Scope1,2 算定終了 次年度以降の算定可能	対象: Scope1,2,3 算定終了
3	削減目標 の設定	SBT準拠目標の説明	基準年(2023年度) 比 毎年5%以上削減	2030年までに 2022年比で34% 削減	設定中
4	削減施策 の検討	具体的削減施策の説明 他社事例の共有	省エネ機器の導入を はじめとした節電・省 エネ活動	・再エネメニュー電力 会社変更の検討 ・設備投資時の補助 金等の申請	今後実施
課題			中国石炭の排出量が 正確にわからない。目 標・削減施策に影響が 大きい	・再エネ導入のコスト ・テナントの電力メ ニューが不明 (全体の約10%)	Scope3算定に時 間がかかり正確性 に不安。目標設定 が難しい

取り組みの内容と成果

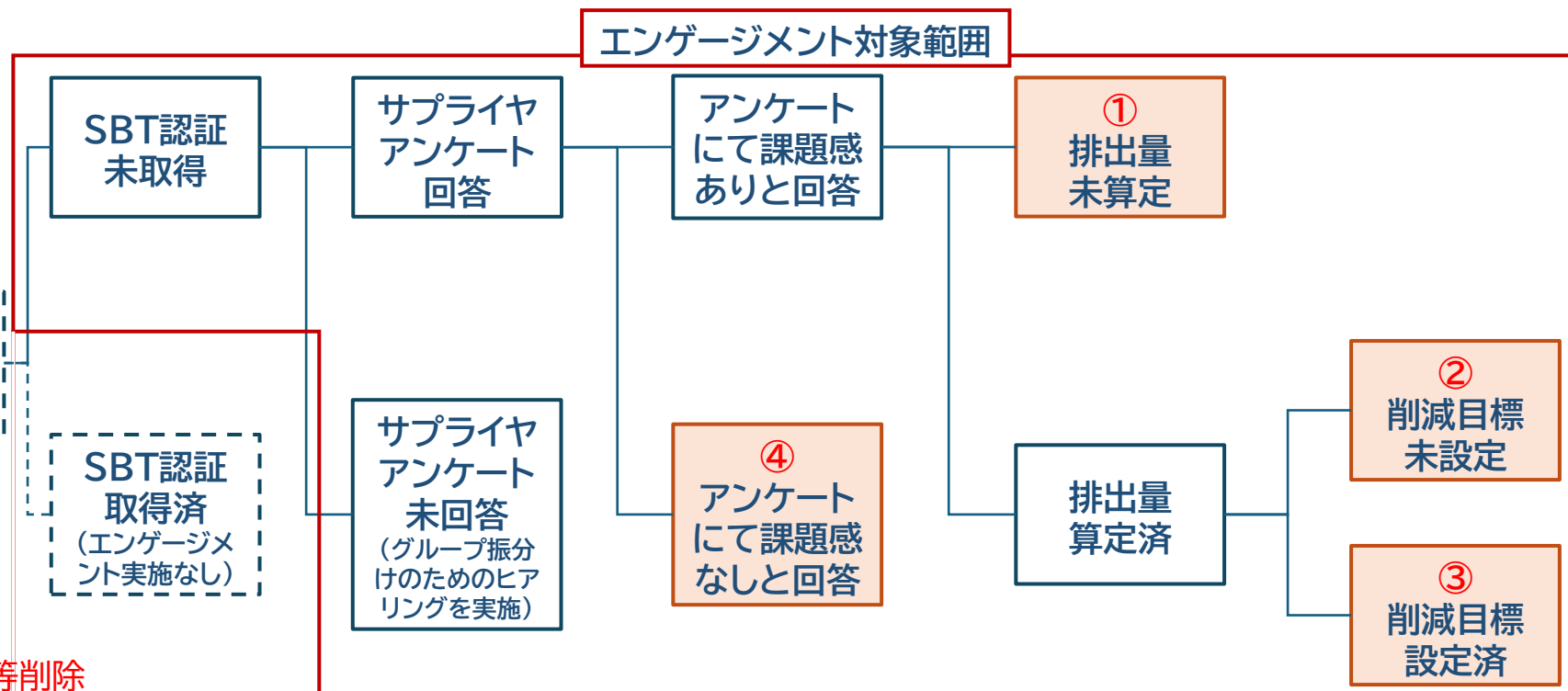
(3)成果:本事業後の計画

エンゲージメントのグループ化と優先順位づけ



- ①排出量**未算定**
- ②排出量**算定済**×目標**未設定**
- ③排出量**算定済**×目標**設定済**
- ④課題感なし

- ・ 2024年8月のアンケート結果よりグループ化
- ・ 優先順位 ①→②→③→④ の順で支援
- ・ アンケート実施時点でのグループ化のため、今後変更の可能性あり



取り組みの内容と成果

(3)成果

課題と検討事項が明確に

課題と検討事項	対応方法
Scope3について 企業によってバウンダリー・方法に幅があり、正確性を含め、算定が難しい。削減策の検討および目標設定に時間を要する。	Scope3算定の有無のため、SBT通常版／中小企業版判定ツールの提供
アンケート結果によるグループ分けについて 算定済みおよび目標設定済みと回答の場合も基準を満たしているか確認することが必要である。	個別ヒアリングとグループ分けの柔軟な対応
サプライヤーへの動機づけや継続的な取り組み	評価・表彰・開示、毎年の情報共有会の開催を検討
算定および目標設定支援の必要性	ツールや算定方法の提供 外部を含めた算定Q/Aへの対応
アドバイザースキルの明確化	必要なスキルの可視化、習得する枠組みの構築

本事業の
ゴール

サプライヤーエンゲージメント目標を達成するために
他のサプライヤーにも展開できる適切な支援策を構築することができた

次年度以降計画

アスクル年度			2024			2025			2026				2027				2028				
			2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
モデル事業																					
進捗確認																					
計画策定																					
各発・情報共有、状況把握(アンケート)																					
サプライヤー群	① 未算定	排出量算定																			
		目標設定																			
		削減策																			
	② 算定 × 目標未設定	排出量確認																			
		目標設定																			
		削減策																			
	③ 算定 × 目標設定	排出量確認																			
		目標確認																			
		削減策																			
	④ 課題感 なし	排出量算定																			
		目標設定																			
		削減策																			
①～④		フォローアップ																			

エンゲージメント達成

エンゲージメント達成

本事業の中でアドバイスを受け、当初の計画を修正。
排出量や目標を確認し、基準に満たない場合には、サプライヤーに修正を求める必要があるので、スケジュールに余裕を持たせている